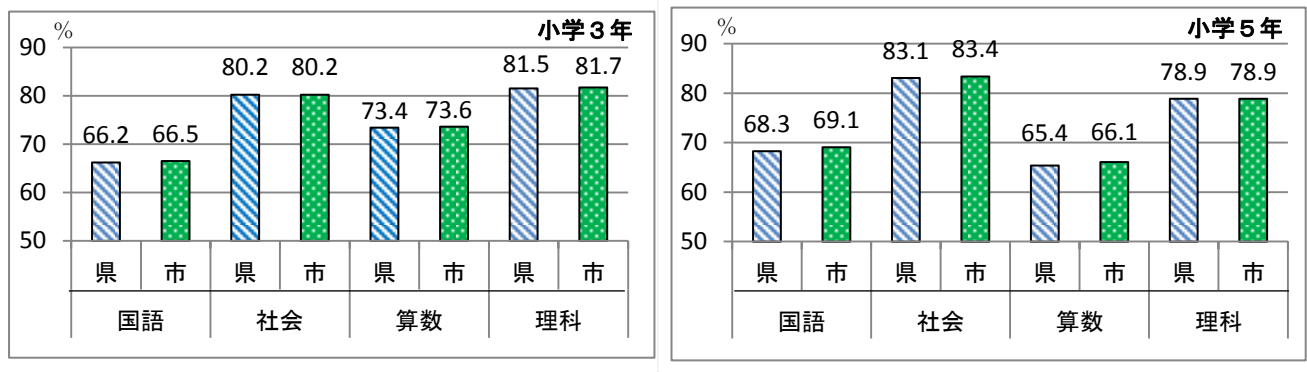


平成29年度千葉市学力状況調査結果概要（小学校版）

1 県と本市の平均正答率との比較



○国語3・5年、社会5年、算数3・5年、理科3年は県平均を上回り、社会3年と理科5年は県平均と等しい。

2 各教科の改善策

【国語】 言語活動を通して目的意識を明確にした学習の充実

小学3年

- 伝える相手や目的を明確にして話す活動を設定するなど、必要感を持つことのできる学習を展開する。また、観点を明確にした相互評価を取り入れ、工夫した伝え方を学び合えるようにする。
- 音読との関連を図った言語活動を位置付け、音読と内容理解を結び付けられるようにする。

小学5年

- 辞書を活用し、意味との関わりを大切にしながら語句の構成を理解できるように指導する。
- 目的や意図に応じた効果的な表現を考え、書いた文章を推敲したり発表し合ったりする相互評価の機会を増やす。

【社会】 知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の育成

小学3年

- 社会的事象について興味・関心を持ち、自ら調べ解決していく問題解決的な学習を充実させ、思考・判断・表現する力を育成する。
- 調査活動や資料、地図から得た知識を比較・関連付けて考えさせ、活用する力を育てる。

小学5年

- 資料、地図から事実を正しく読み取らせ、様々な事象を比較・関連付けて考えられるようにする。
- 問題解決的な学習を展開し、様々な立場から事象を捉えたり、話し合い活動を充実させたりすることで、多面的な見方で社会的事象が捉えられるようにする。

【算数】 主体的に取り組む数学的活動のより一層の充実

小学3年

- 虫食い算を含む様々な計算においては、類似の課題に取り組む経験を積ませるなど、計算の意味理解と技能の確実な定着を図る。
- 調査や資料づくりなどの多様な学習において、表や棒グラフを用いて考える場面を意図的に設定し、日常の事象と関連付けて根拠を明確にしながら説明できるようにする。

小学5年

- 計算の意味を理解する学習では、計算の結果を見積もる力を付け、線分図や数直線を使って解き方を説明する活動を多く取り入れる。
- 図形を変形・移動させて必要な条件を導き出すなど、図形の構成要素に着目し、求積の仕方を筋道立てて説明する活動を多く取り入れる。

【理科】 目的意識を持たせた観察・実験、根拠をもとにした思考力・判断力の育成

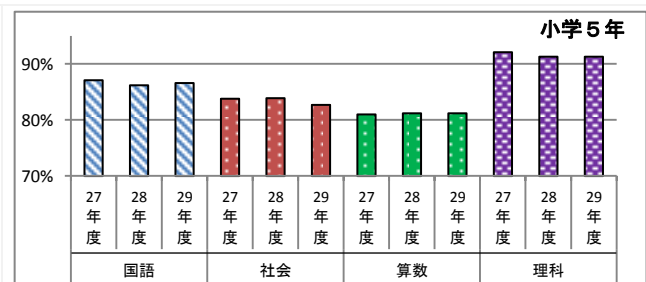
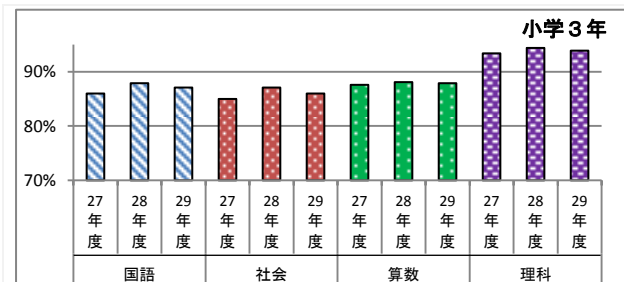
小学3年

- 観察・実験の結果を考察する際は、継続的に観察させたり事実を繰り返し体感させたりしながら、自然事象や生活経験と結び付けて考えたり、表現したりすることができるようにする。
- 観察の視点を明確にし、観察を通して学んだことを実生活に関連付けることで、興味・関心を高め、知識の活用につなげる。

小学5年

- 器具の操作手順や留意点を確認した後、技能の習熟を図り、目的意識を持って観察・実験を行うようにする。
- 様々な資料やデータを比較しながら学習を進め、結果や原因を類推し、根拠をもとにした思考・判断ができるようにする。

3 学習に対する意識（学校の勉強がわかる）

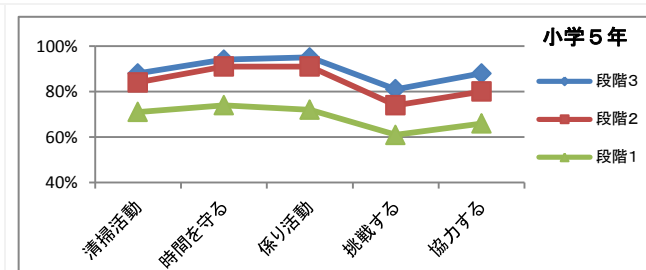
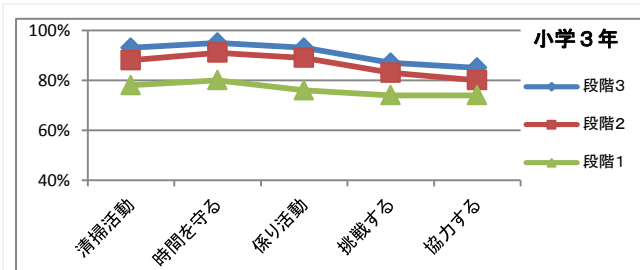


「理科がわかる」割合は91%以上

3・5年ではともに理科の学習がわかるという回答の割合がそれぞれ93%、91%と高い。前年度と比較して肯定的回答率が向上しているのは5年の国語で、5年の算数と理科は前年度と同程度である。3年の全教科と5年の社会においては、前年度と比べて肯定的回答率が低下している。

4 学力と学校生活との関連

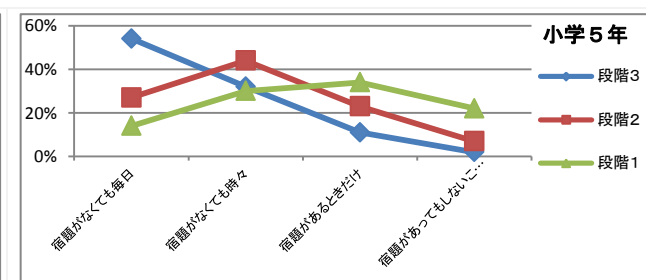
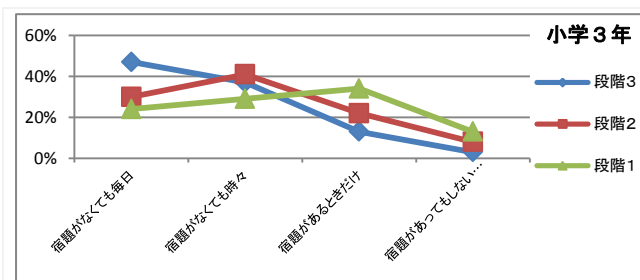
標準偏差により、段階3を成績上位群、段階2を成績中位群、段階1を成績下位群としている。



「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で大きな差がある

全学年ともに、「成績上位群・中位群」と「成績下位群」で肯定的回答率の割合に大きな差が開いている。

5 学力と家庭学習との関連



「成績上位群」は家庭学習によく取り組んでいる

「成績上位群」は宿題がなくても毎日、「成績中位群」は時々家庭学習をしている児童の割合が大きい。「成績下位群」では、5年になると宿題があってもしない児童の割合が大きくなっている。